

平成二十五年度 第二十六回夕暮祭短歌大会入賞歌

秦野市長賞

阿夫利嶺をあふげばさやか初夏の虹その弧の上を孫と駈けたし

秦野市教育委員会教育長賞

惚け少し悟りも少し一坪の農婦となりて豆の種蒔く

夕暮生誕百三十年記念特別賞

向日葵を見ては夕暮牡丹花を見ては利玄のうた口ずさむ

村岡嘉子選者賞

梨の花しろしろ畑に光りながら阿夫利の山を雨雲被ふ

山田吉郎選者賞

雛の夜を雪洞長く灯しをり息子に恋の気配のありて

佳作

青空の切り取り線を描いてるつばめと君を見送るホーム

忘れたい昨日があれば山盛りの洗剤入れてシートを洗う

横綱の二人ながらに海持たぬ国に生れては大鯛かざす

東大寺伎楽の面のまなかより天平人はうつし世のぞく

母のとし二十歳越えてゆく八十路割烹着の母しんと添ひくる

前髪をくると弾ませペダル漕ぐ菜の花色の風がまぶしい

震生湖に仄かな愛を沈ませた遠き初秋をいまだ忘れず

公しのぶ歌碑のかたへにほのぼのと泰山木の白妙咲く

何ごとか佳きことあらむ「春ゆたか」大根の種購い帰る

着ぶくれた私がつるウインドーに春を装うマネキン笑う

桃の日に撮りし写真は色褪せて微笑む吾子も既に子の母

エッセイに蟠りごと締めくくり一步踏み出す八十六歳を

星座読み飛行路決める渡り鳥われらがナビも星ちりばめむ

トラツクの眠る倉庫にひなの声ひさし掠めてつばめ飛び来る

大黒天の袋ほどなる嵩の張るゴミ袋要る今日日の暮らし

山峡の月のランプにわが影を踏みしめ帰る岩国峠

屋形船に灯りの点る頃となり貴女も別の顔になりゆく

やもめにはどこか寂しき趣の白物家電が放つ女声は

野道ゆく視界の彼方背を伸ばし菜の花畑の黄を目標に

北国の天然アイスとけだして中からのぞく春色のチョコ

神奈川県伊勢原市 山田ゆたか

神奈川県横須賀市 岡本典子

東京都杉並区 庭野治男

神奈川県伊勢原市 小島きみ子

千葉県市川市 清水麻利子

大阪府大阪市 紺野 泉

東京都町田市 中川みつ子

山形県山形市 土屋宗子

神奈川県足柄上郡 笹尾雅美

愛媛県松山市 弓削香代子

佐賀県佐賀市 木下美樹枝

千葉県松戸市 桂木泰子

神奈川県秦野市 高野つや子

茨城県鹿嶋市 織田臣子

山梨県富士吉田市 勝俣治代

神奈川県海老名市 浜元さざ波

神奈川県秦野市 中村かつ子

石川県白山市 浜本すみれ

東京都品川区 松永弘之

宮城県角田市 高橋美枝子

千葉県市川市 山本 明

神奈川県足柄上郡 尾崎竹詩

宮城県仙台市 阿部堅市

千葉県茂原市 森 八重子

北海道富良野市 萩原悠太